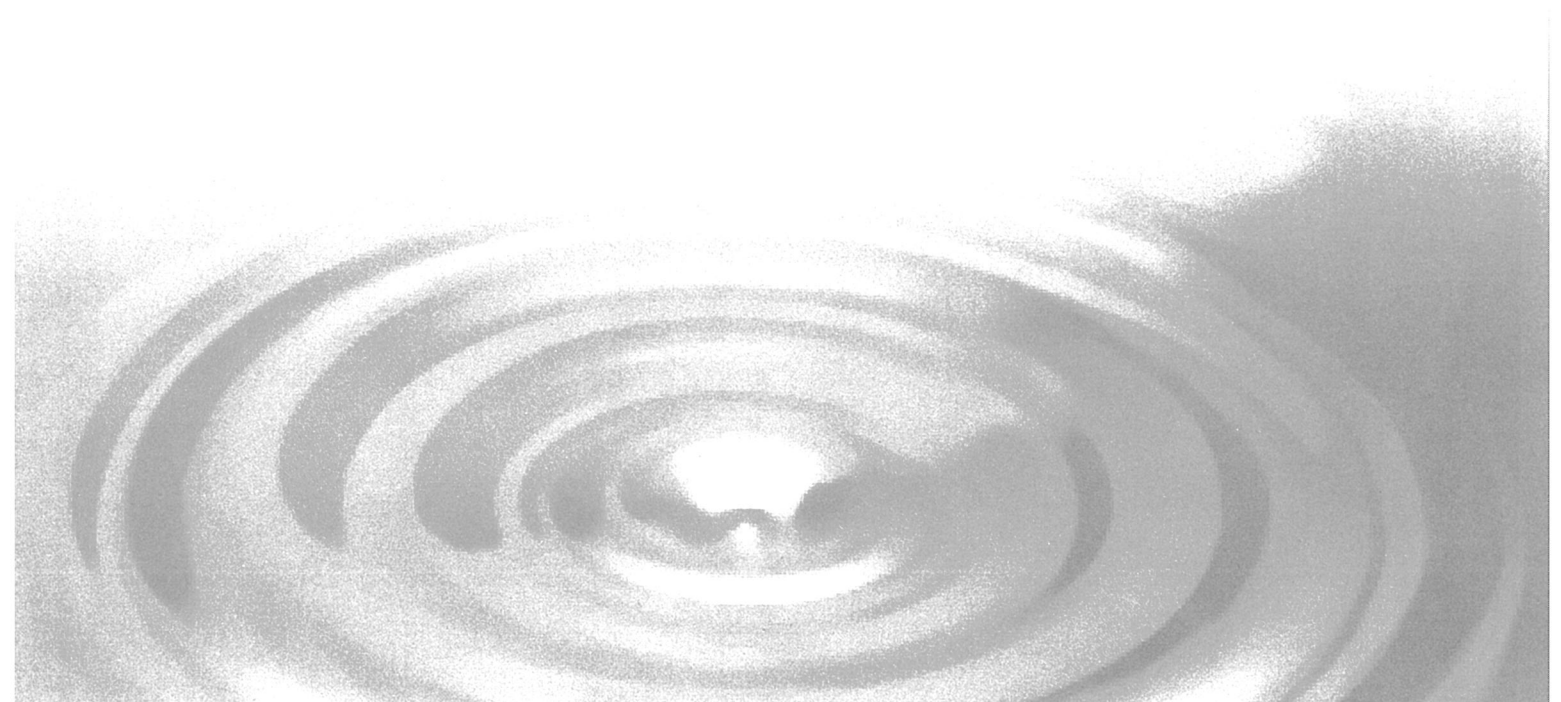
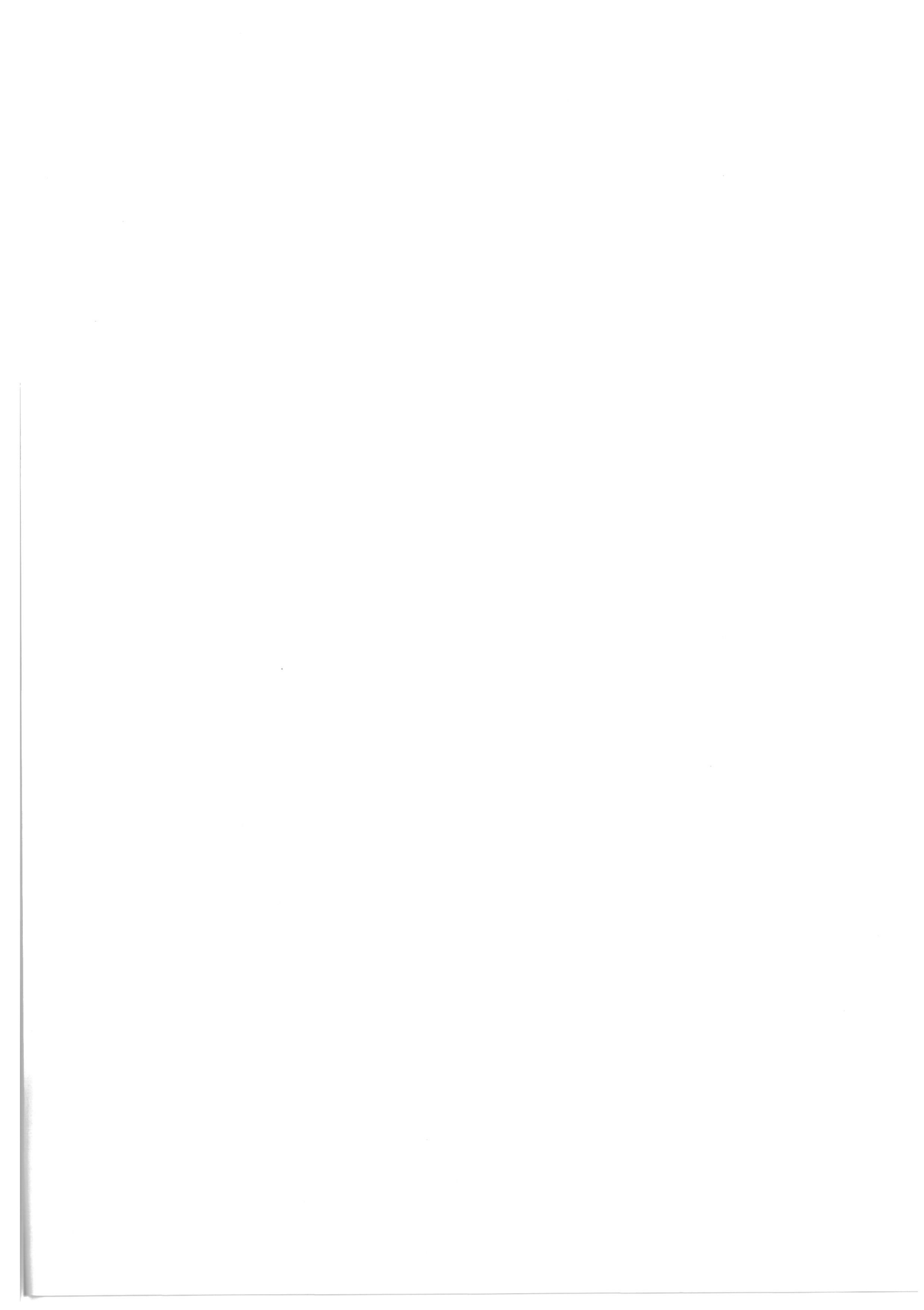


## Ⅱ 調査研究





# 「島根大学公開講座受講生の学習行動・学習意識に関する調査」

## 平成25年度 調査報告

### I 調査の概要

#### 1. 調査の目的

大学公開講座は、大学の専門的、総合的な教育・研究機能やその成果を社会一般に開放するために、その大学の教員が中心となり、主に地域住民を対象に生活上、職業上の知識、技術及び一般教養等の学習機会を提供する教育的な事業といわれている。

本学の公開講座は、一般市民が気軽に受講できる地域の重要な学習機会の一つになっており、講座の内容も社会人・職業人を対象とした専門的な内容だけでなく、一般教養、語学、趣味、スポーツなど大学の特色を生かした多彩で幅広い内容となっている。受講の対象も、特に限定されない一般市民であり、職業を持つ社会人だけでなく、内容に応じて小・中学生から高齢者までの幅広い年代層が対象となっている。

また、本学の公開講座は、前述の趣旨を踏まえ、いわゆる大学公開講座だけでなく、学生対象の授業を公開授業として一般市民が受講できるよう体制を整えており、両者を合わせて島根大学公開講座として広く展開している。

本調査は、島根大学における公開講座・公開授業受講生の学習行動・学習意識を分析し、島根大学公開講座への期待や希望、講座の評価等を明らかにすること、社会や市民のニーズに対応した公開講座のあり方を検証するためのデータとして活用することが目的である。また、この調査は、毎年継続して実施しており、これまでの調査結果とあわせて、公開講座のあり方の比較検証データとして活用する予定である。

#### 2. 調査方法

平成25年度調査は、本学の公開授業、公開講座の受講者に対して、「公開講座・公開授業の受講にあたっての学習意識と学習行動」の調査を実施した。

- (1) 調査対象 平成25年度前期・後期の公開講座、公開授業受講者  
(小・中学生、高校生等の18歳未満の受講者を除く)
- (2) 調査期間 前期(平成25年9月～平成25年10月) ※各講座終了時  
後期(平成26年2月～平成26年3月) ※各講座終了時
- (3) 調査方法 質問紙調査法  
・公開講座受講者は、各講座終了時に直接配布、回収  
・公開授業受講者は、各期授業終了時に配布、後日回収
- (4) 回収結果 前期・後期の受講者710人に質問紙を配布  
(公開講座受講者544人、公開授業受講者166人)  
回答回収数：公開講座 380 (回収率 69.9%)  
公開授業 89 (回収率 53.6%)  
合計 469 (全体回収率 66.1%)  
有効回答数： 466 (有効回収率65.6%)  
※基本的属性の未記入回答は無効と見なした。

### 3. 調査項目

- (1) 回答者の属性（男女・年代層・居住地域・職業）
- (2) 公開講座の情報取得、交通手段、受講経験、年間受講状況
- (3) 公開講座の受講理由
- (4) 公開講座の学習成果の活用方法
- (5) 大学での学習希望、学習関心
- (6) 島根大学公開講座への要望、感想（自由記述）

### 4. 回答者の基本属性

- (1) 回答者の属性（性・年齢）

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	合計 (人)
男	0	4	7	19	11	98	75	18	232
女	1	11	12	29	53	82	36	10	234
合計	1	15	19	48	64	180	111	28	466

## Ⅱ 調査の結果と考察

島根大学公開講座は、一般市民対象に開講される「公開講座」と学生向け授業を一般市民が受講できるよう公開した「公開授業」から構成されており、それぞれが特色ある学習機会となっている。

「公開講座」は、1回から10数回の講義及び実技から構成され、既定の受講料により有料講座、無料講座に分かれて実施されている。一方、「公開授業」は大学学年歴に従って前期、後期に2回実施され、学生とともに受講する15回の講義から構成され、すべて有料講座として実施されている。

本調査は、「公開講座」及び「公開授業」の受講者を対象に、前期、後期の講座終了時にアンケート用紙を配布し、その場で回収するか、もしくは、各人に本センターに届けていただいている。以下、その調査結果のまとめたものである。

### 1. 受講者の属性

#### (1) 性別【問1】

受講者の性別は、表1のとおり、男性が49.8%、女性が50.2%とほぼ半数づつとなっている。

図1 受講者の性別（男女比%）

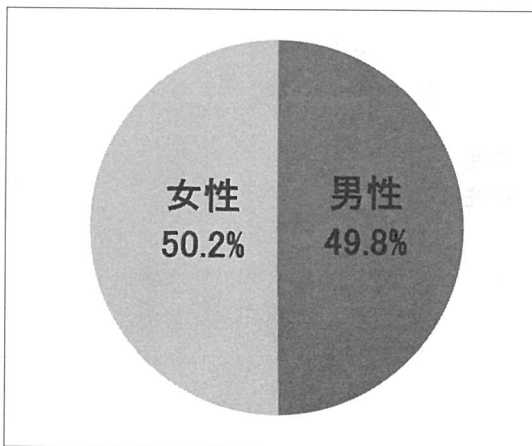


表1 受講者の性別

	人数	%
男性	232	49.8
女性	234	50.2
合計	466	100.0

#### (2) 年代【問2】

受講者の年代は、表2のとおり、60歳代が最も多く全受講者の38.6%、次に70歳代が23.8%、50歳代が13.7%となっている。受講者の年代構成も、60歳以上の高齢者層が全体の約7割（68.5%）を占めており、講座受講者の大きな特徴となっている。

次に、60歳を年齢の区切りとして、受講者の男女構成を比較してみると、表3、表3-1、図3、図3-1のとおり、60歳未満の世代では、女性の受講者が7割（72.1%）を超えている。一方、60歳以上の世代では、男性の受講者が多く6割（59.9%）を占めている。

図2 受講者の年代

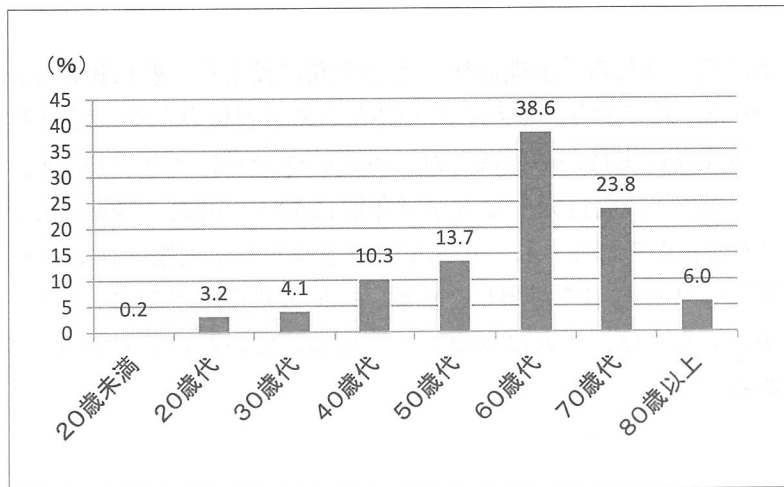


表2 受講者の年代

年代	人数	%
20歳未満	1	0.2
20歳代	15	3.2
30歳代	19	4.1
40歳代	48	10.3
50歳代	64	13.7
60歳代	180	38.6
70歳代	111	23.8
80歳以上	28	6.0
合計	466	100.0

図3 受講者の年代別男女構成人数 (【問1】×【問2】)

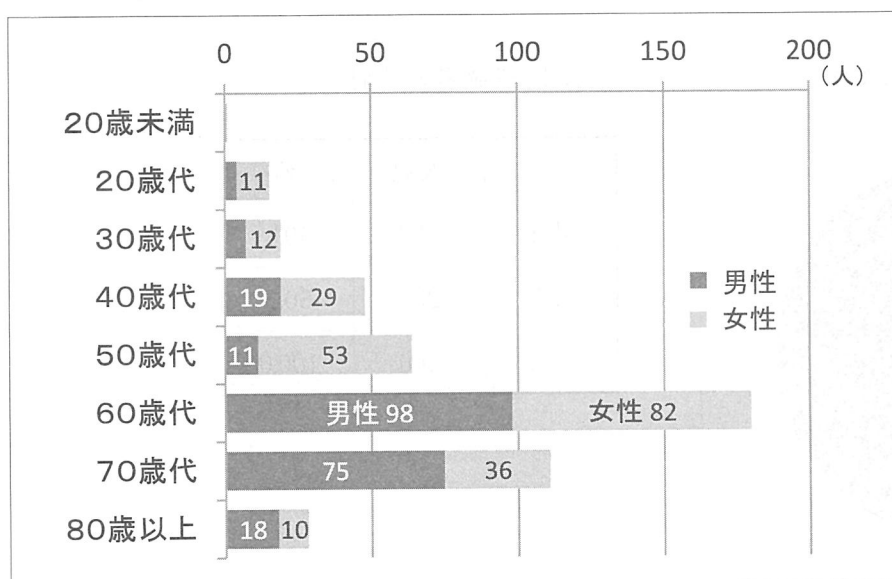


表3 受講者の年代別男女比 (【問1】×【問2】)

年代	男性		女性		全体	
	人数 (人)	%	人数 (人)	%	人数 (人)	%
20歳未満	0	0.0	1	0.4	1	0.2
20歳代	4	1.7	11	4.7	15	3.2
30歳代	7	3.0	12	5.1	19	4.1
40歳代	19	8.2	29	12.4	48	10.3
50歳代	11	4.7	53	22.6	64	13.7
60歳代	98	42.2	82	35.0	180	38.6
70歳代	75	32.3	36	15.4	111	23.8
80歳以上	18	7.8	10	4.3	28	6.0
合計	232	49.8	234	50.2	466	100.0

図3-2 60歳を年齢の区切りとした年代別・男女別受講者数の比較

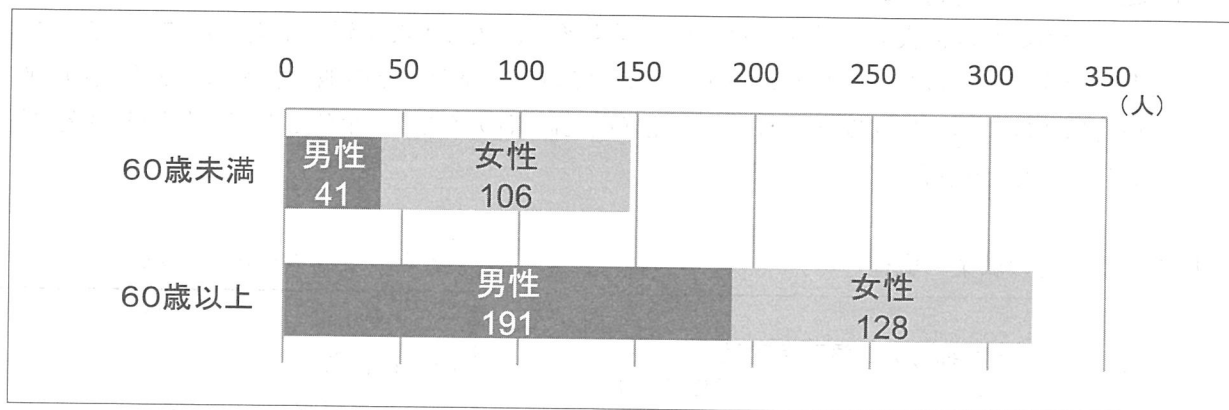


表3-2 60歳を年齢の区切りとした年代別・男女別受講者数の比較

		男性		女性		合計 (人)	%
		人数 (人)	%	人数 (人)	%		
年代別	60歳未満	41	17.7	106	45.3	147	31.5
	60歳以上	191	82.3	128	54.7	319	68.5
	合計	230	100.0	231	100.0	466	100.0
男女別	60歳未満	41	27.9	106	72.1	147	100.0
	60歳以上	191	59.9	128	40.1	319	100.0
	合計	232	49.8	234	50.2	466	100.0

### (3) 居住地【問3】

受講者の居住地は、表4より、公開講座の主な開催会場となっている本学キャンパスが所在する松江市（83.0%）、及び出雲市（6.7%）の2市で全体の9割弱（89.7%）を占めている。大部分の受講者は、本学からの距離的な長短はあるが、およそ1時間圏内の市町村に在住していることが明らかになった。

図4 受講者の居住地

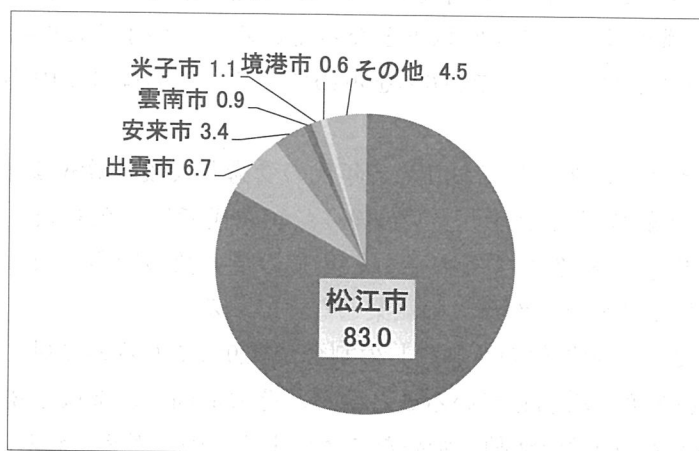


表4 受講者の居住地

地区名	人数	%
松江市	387	83.0
出雲市	31	6.7
安来市	16	3.4
雲南市	4	0.9
米子市	5	1.1
境港市	3	0.6
其他地区	20	4.3
合計	466	100.0

#### (4) 職業・業種 【問4】

受講者の職業は、表5から無職が48.1%と最も多く、次に専業主婦（主夫）が17.8%で、この両者で受講者全体の3分の2近い65.9%を占めている。なお、その他の職業は、公務員の9.0%を最高に他はすべて10%以下であり、公開講座受講者の職業は、全体として、無職と専業主婦（主夫）の市民が中心となっている。

図5 受講者の職業・職種

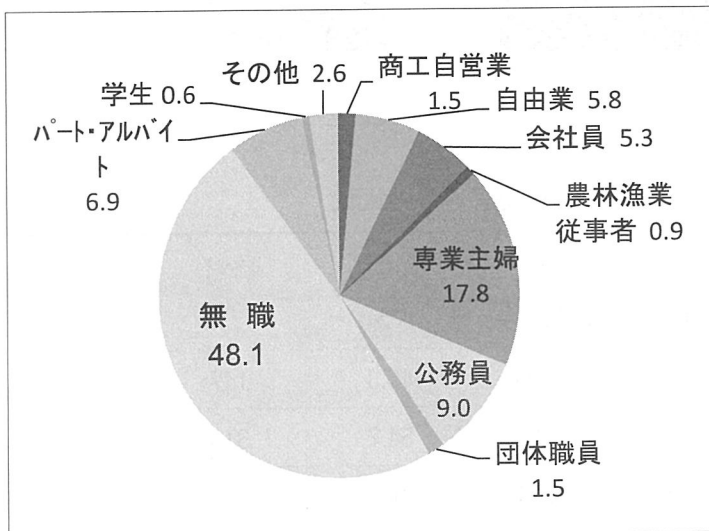


表5 受講者の職業・職種

職種	人数	%
商工自営業	7	1.5
自由業（自営）	27	5.8
会社員	25	5.4
農林漁業従事者	4	0.9
専業主婦（夫）	83	17.8
公務員	42	9.0
団体職員	7	1.5
無職	224	48.1
パート・アルバイト	32	6.9
学生	3	0.6
その他	12	2.6
合計	466	100.0

さらに、受講者の年代別の職業・職種を詳細に把握するために分析を行った。すでに、60歳未満の受講者の7割以上（72.1%）を女性が占めており、60歳以上の年代では逆に男性がほぼ6割（59.9%）を占めていることは明らかになっている。

次に、受講者を60歳未満と60歳以上に分けた場合の職業について見てみると、表6、図6、表6-1から、60歳未満では、「公務員」の25.9%を筆頭に、「専業主婦（夫）」17.7%、「会社員」14.3%、「パート・アルバイト」13.6%と続いており、「公務員」が他の職業に10ポイント近く差をつけて現役世代として最大の受講者層となっている。

また、60歳以上の世代の職業を見てみると、全体の7割近い67.7%が「無職」であり、続いて「専業主婦（夫）」が17.9%で、他の職種はすべて4%以下となっている。このように60歳以上の受講者の職業は、「無職」と「専業主婦（夫）」で85.6%を占めており、この両者が中心となっている。

このように受講者の職業構成は年代とともに変化しており、各年代の受講者人数の増減はあるが、20歳代は「公務員」（46.7%）、30歳代は「会社員」（26.3%）、40歳代では「公務員」（37.5%）、50歳代では「専業主婦（主夫）」（28.1%）がそれぞれの年代の最大数の職業となっている。なお、60歳代以上は全ての年代で「無職」が最大の職業となっている。

60歳代以降の「無職」の増加については、50歳代の「無職」の割合が10.9%であるのに対して、60歳代になると53.3%と一気に割合が5倍に増加していることから、その原因は、60歳を境に退職された社会人が、大学の公開講座等での学習活動を始めたことによるものと考えられる。



次に、表6-2から、受講者の各職業における男女の違いを見てみると、男性232人の内の69.0%、160人が「無職」であり、次は「公務員」で9.1%、21人となっている。この「公務員」を含めて、「無職」以外の職業はすべて10%未満で、男性受講者のおよそ7割が「無職」となっている。また、女性受講者234人の内、34.2%にあたる80人が「専業主婦」であり、次に「無職」が27.4%、「パート・アルバイト」が10.7%と続いている。他の職種は全て10%以下の少数となっている。

続いて、各職業における男女の構成比を見てみると、男性の比率が7割を超えるのは、「商工自営業」「農林漁業従事者」「団体職員」「無職」となっている。逆に女性の比率が7割を超えているのは「自由業（自営）」「専業主婦」「パート・アルバイト」となっている。なお、「会社員」「公務員」「学生」は男女の比率に大きな差異はない。

図6 受講者の年代別職業比（【問2】×【問4】）

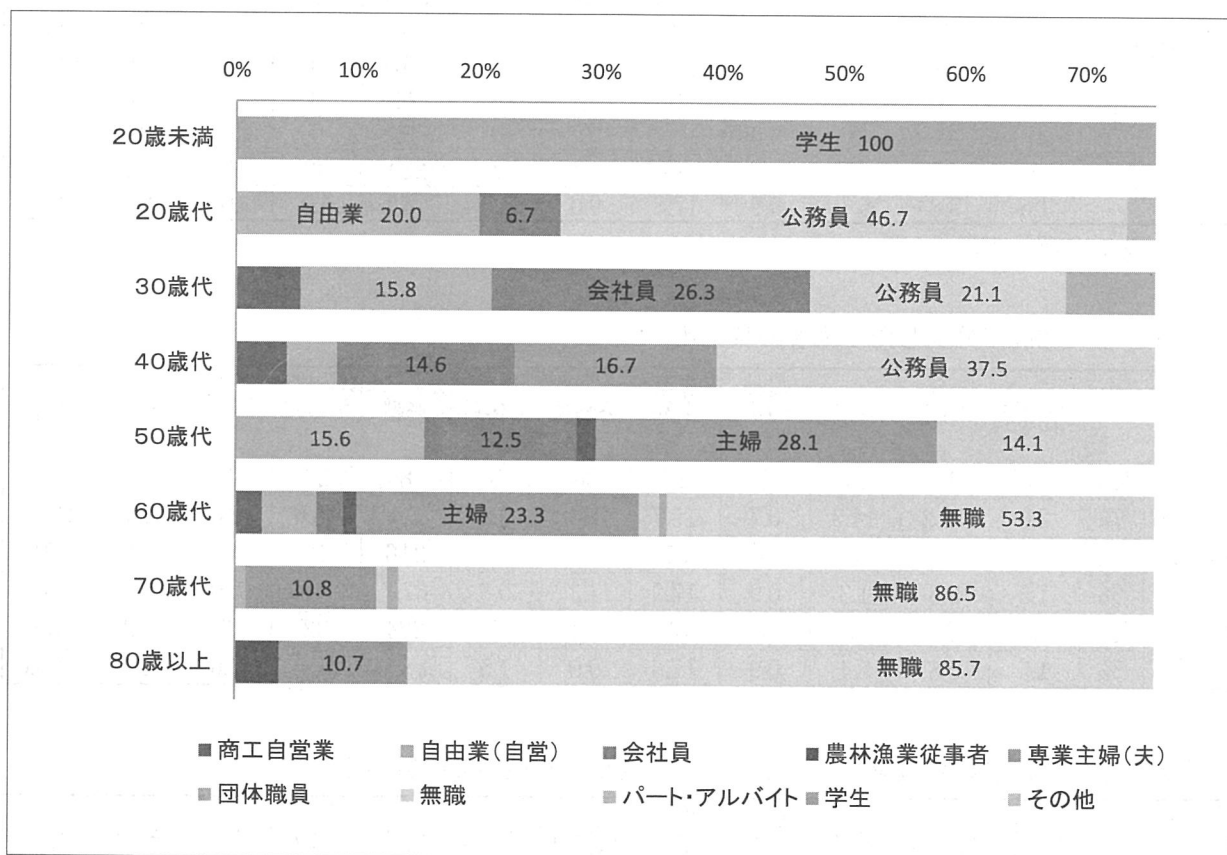


表6 受講者の年代別職業比（【問2】×【問4】）

	商工 自営業	自由業	会社員	農林 漁業 従事者	専業 主婦 (夫)	公務員	団体会員	無職	パート アルバイト	学生	その他	合計
20歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100.0	0	100
20歳代	0	3	1	0	0	7	0	0	2	2	0	15
	0	20.0	6.7	0	0	46.7	0	0	13.3	13.3	0	100
30歳代	1	3	5	0	0	4	4	1	0	0	1	19
	5.3	15.8	26.3	0	0	21.1	21.1	5.3	0	0	5.3	100
40歳代	2	2	7	0	8	18	1	0	9	0	1	48
	4.2	4.2	14.6	0	16.7	37.5	2.1	0	18.8	0	2.1	100
50歳代	0	10	8	1	18	9	0	7	9	0	2	64
	0	15.6	12.5	1.6	28.1	14.1	0	10.9	14.1	0	3.1	100
60歳代	4	8	4	2	42	3	1	96	12	0	8	180
	2.2	4.5	2.2	1.1	23.3	1.7	0.6	53.3	6.7	0	4.5	100
70歳代	0	1	0	0	12	1	1	96	0	0	0	111
	0	0.9	0	0	10.8	0.9	0.9	86.5	0	0	0	100
80歳以上	0	0	0	1	3	0	0	24	0	0	0	28
	0	0	0	3.6	10.7	0	0	85.7	0	0	0	100
合計	7	27	25	4	83	42	7	224	32	3	12	466
	1.5	5.8	5.4	0.9	17.8	9.0	1.5	48.1	6.9	0.6	2.6	100

(※上段：人数 下段：%)

表6-1 60歳で分別した受講者の職業比

	商工自 営業	自由業	会社員	農林 漁業 従事者	専業 主婦 (夫)	公務員	団体会員	無職	パート アルバイト	学生	その他	合計
60歳 未満	人数	3	18	21	1	26	5	8	20	3	4	147
	%	2.0	12.2	14.3	0.7	17.7	25.9	3.4	5.4	13.6	2.0	2.7
60歳 以上	人数	4	9	4	3	57	2	216	12	0	8	319
	%	1.3	2.8	1.3	0.9	17.9	1.3	67.7	3.8	0.0	2.5	100.0
全体	人数	7	27	25	4	83	7	224	32	3	12	466
	%	1.5	5.8	5.4	0.9	17.8	9.0	48.1	6.9	0.6	2.6	100.0

表6-2 受講者の各職業における男女比、及び男女性別での職業比

	商工自 営業	自由業	会社員	農林 漁業 従事者	専業 主婦 (夫)	公務員	団体会員	無職	パート アルバイト	学生	その他	合計	
職業比	男性	6	7	11	4	3	21	5	160	7	1	7	232
	女性	85.7	25.9	44.0	100.0	3.6	50.0	71.4	71.4	21.9	33.3	58.3	49.8
男女比	男性	1	20	14	0	80	21	2	64	25	2	5	234
	女性	14.3	74.1	56.0	0.0	96.4	50.0	28.6	28.6	78.1	66.7	41.7	50.2
合計	人数	6	7	11	4	3	21	5	160	7	1	7	232
	%	2.6	3.0	4.7	1.7	1.3	9.1	2.2	69.0	3.0	0.4	3.0	100.0
合計	人数	1	20	14	0	80	21	2	64	25	2	5	234
	%	0.4	8.5	6.0	0.0	34.2	9.0	0.9	27.4	10.7	0.9	2.1	100.0
合計	人数	7	27	25	4	83	42	7	224	32	3	12	466
	%	1.5	5.8	5.4	0.9	17.8	9.0	1.5	48.1	6.9	0.6	2.6	100.0

※上段：人数 下段：% ※（【問2】×【問4】）と（【問1】×【問4】）

## 2. 公開講座の受講申請状況

### (1) 公開講座情報の取得方法【問5】

公開講座の受講に関する情報取得は、表7の通り、本センターが配布している「案内小冊子」が51.7%で、半数以上の受講者が講座情報の情報源としている。続いて「大学ホームページ」が22.3%、「新聞折込の募集チラシ」が17.4%と続いている。以下、「クチコミ」「市町村広報」「公共施設等配置チラシ」等が続いている。

図7 受講者の情報収集手段

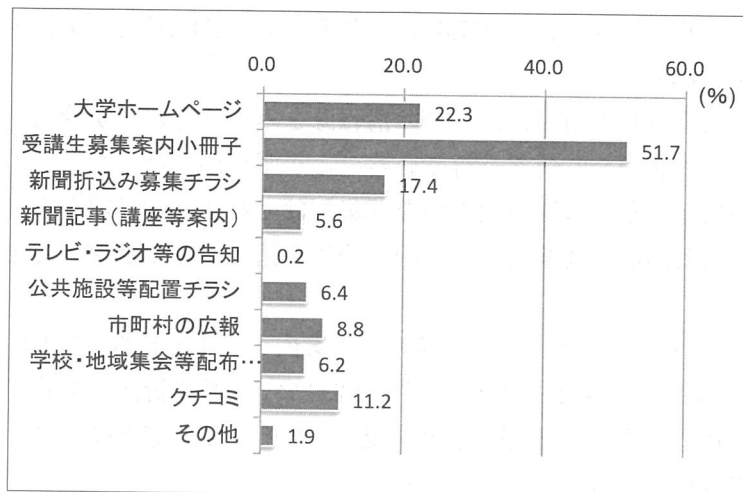


表7 受講者の情報収集手段

N=465 M.T.=132.1

	人数	%
大学ホームページ	104	22.3
受講生募集案内小冊子	241	51.7
新聞折り込み募集チラシ	81	17.4
新聞記事(講座等案内)	26	5.6
テレビ・ラジオ等の告知	1	0.2
公共施設等配置チラシ	30	6.4
市町村の広報	41	8.8
学校地域集会配布チラシ	29	6.2
クチコミ	52	11.2
その他	9	1.9
度数合計	614	

### (2) 島根大学公開講座の受講経験【問6】

受講者の受講経験は、表8より「初めて」の方が27.7%、「2回目」が18.9%、3回目以上が53.4%とリピーターがおよそ4分の3を占めている。このリピーターの多さが、公開講座受講者の増加の大きな要因になっていることと考察される。

図8 受講者の受講経験

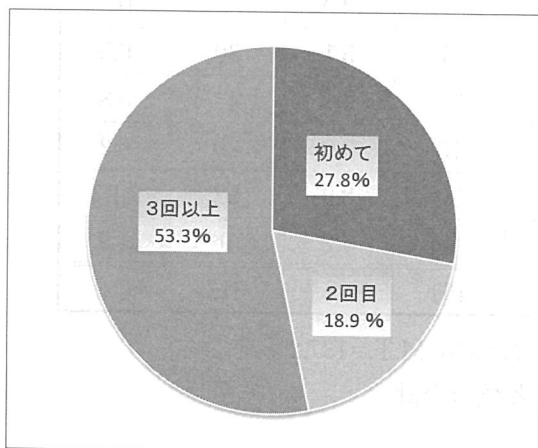


表8 受講者の受講経験

	人数	% (昨年比)
初めて	129	27.7 (26.0)
2回目	88	18.9 (14.8)
3回目以上	249	53.4 (59.2)
合計	453	100.0

(3) 公開講座情報の取得方法と受講経験（【問5】×【問6】）

公開講座の受講に関する情報取得手段は、前項の表7の通り、受講者全体としては、「案内小冊子」が51.6%で、半数以上の受講者の情報源となっていることが明らかになったが、今後、本学の公開講座をより多くの一般市民の生涯学習活動に供するためには、「初めて」公開講座を受講する一般市民の情報源が何であるのか明らかにする必要がある。そのため、「公開講座の情報源」と「受講経験」のデータをクロス集計すると表8-1の結果となった。

「初めて」の市民が公開講座に関心を持って見ているのは、「大学ホームページ」と「新聞折込みの募集チラシ」の2つの情報源が、同率20.2%と最大となっている。これらは、不特定多数の一般市民を対象としたものであり、この情報源は、新規受講者の獲得に結びついたものと考えられる。その次に「公開講座募集案内小冊子」が17.8%、「クチコミ」が17.1%、「学校・地域等での配布のチラシ」が12.4%で続いている。

このように「初めて」公開講座を受講される市民は、一つの情報源をみて多くの人が受講する訳ではなく、幅広い様々な情報源から満遍なく情報を得ていることが明らかになった。このことは、受講者の増加を目指すためには、年に数回の大々的な募集だけでなく、常日頃から日常生活圏内の公民館や図書館などの公共施設や講演会、行政の広報等を活用することが肝要といえる。

一方、受講経験者の方々は、本学より送付される「公開講座募集案内小冊子」が64.6%と圧倒的な情報源であり、その他の情報源は「大学ホームページ」が23.2%、「新聞折込み募集チラシ」が16.4%で続いている。その他の「市町村広報のお知らせ」「クチコミ」等が続いているが、いずれも情報源としての利用度は10%以下となっている。

表8-1 公開講座情報の取得方法と受講経験 (N=465 M.T.=131.8)

	初めて		リピーター		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%
1 大学ホームページ	26	20.2	78	23.2	104	22.4
2 受講生募集案内小冊子	23	17.8	217	64.6	240	51.6
3 新聞折込みの募集チラシ	26	20.2	55	16.4	81	17.4
4 新聞の記事	10	7.8	16	4.8	26	5.6
5 テレビ・ラジオ等の案内	1	0.8	0	0.0	1	0.2
6 公共施設に配置のチラシ	13	10.1	17	5.1	30	6.5
7 「市町村広報」のお知らせ	10	7.8	31	9.2	41	8.8
8 学校・地域等で配布のチラシ	16	12.4	13	3.9	29	6.2
9 クチコミ	22	17.1	30	8.9	52	11.2
10 その他	5	3.9	4	1.2	9	1.9
合計	152		461		613	

※ 「初めて」 N=129 M.T.=117.8 「リピーター」 N=336 M.T.=137.2

※ 「リピーター」は、2回目と3回目以上の受講者数の合計

### 3 公開講座の受講理由、活用方策、関心事等

#### (1) 公開講座の受講理由【問7】

公開講座受講者の受講理由では、表9・図9より、7割を超える74.5%の受講者が「興味のある内容の講座があるため」を選択し、次には、回答者の半数にあたる50.4%の受講者が「幅広い教養を身につけるため」を選択しており、これら2項目は他の項目と比較して10ポイント以上の高い選択率となっている。このことから、「興味のある内容の講座がある」や「幅広い教養を身につける」等の受講者の「学習関心」や「学習目的」が公開講座を受講するという学習行動の大きな要因となっていると推察される。

続いて、受講者の受講理由として「心のハリや生きがいを味わうため」が38.0%、「退職後の余暇の充実のため」が32.0%、「生活の時間に余裕ができたため」が27.5%と比率で選択されている。他の項目は、さらに10ポイント以上低い選択率となっている。

これらの3項目を選択した受講者の年齢構成を見てみると、「心のハリや生きがいを味わうため」を選択した受講者の79.7%が60歳以上の高齢受講者となっている。同様に、「退職後の余暇の充実のため」では94.6%、「生活の時間に余裕ができたため」では、84.4%が高齢受講者が選択しており、これらの項目内容は、受講者の7割を占める60歳以上の高齢受講者の学習活動の行動要因となっていると推察される。

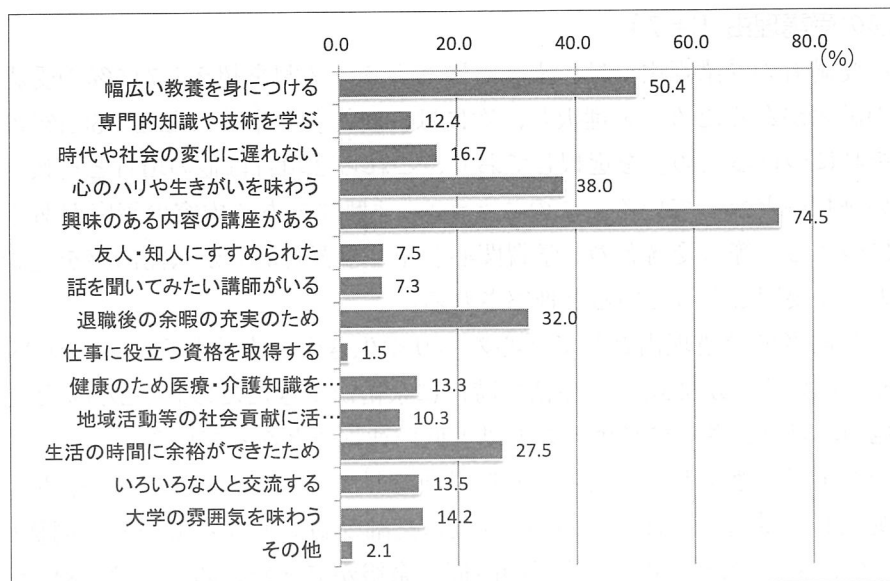
これらの上位の選択項目から、考察するとより多くの市民の参加を得るためには、地域住民の学習ニーズを広く把握し、個々人の自己啓発・自己実現に結びつく高度な内容の教養講座や社会の変化に対応した専門性の高い講座の開講が今後、ますます必要となってくるものと考えられる。

表9 公開講座の受講理由

N=466 M.T.=321.3

受講理由項目	人数	%
1 幅広い教養を身につけるため	235	50.4
2 専門的知識や技術を学ぶため	58	12.4
3 時代や社会の変化に遅れないため	78	16.7
4 心のハリや生きがいを味わう	177	38.0
5 興味のある内容の講座がある	347	74.5
6 友人・知人にすすめられた	35	7.5
7 話を聞いてみたい講師がいる	34	7.3
8 退職後の余暇の充実のため	149	32.0
9 仕事に役立つ資格を取得する	7	1.5
10 健康のため医療・介護知識を学ぶ	62	13.3
11 地域活動等の社会貢献に活かす	48	10.3
12 生活の時間に余裕ができたため	128	27.5
13 いろいろな人と交流する	63	13.5
14 大学の雰囲気味わう	66	14.2
15 その他	10	2.1
度数合計	1497	

図9 公開講座の受講理由



(2) 学習の成果の活用方法【問8】

学習の成果の活用方法は、表10・図10のとおり、80.8%の高い選択率で受講者が「趣味・教養を高め、生きがいや楽しみにする」を選択している。次には、「自分の健康管理やスポーツ活動等に活かす」が22.7%、「知識や技術を高めたり、資格を取得したり、自己啓発を行い、仕事に反映させる」が20.5%で続いている。

これらのデータから、多くの受講者は、問7で選択率の高かった「幅広い教養を身につける」や「心のハリや生きがいを味わう」等の講座受講理由と合わせて考察すると、学習成果の活用は「自分自身の生きがいや楽しみにする」等の自己啓発・自己実現に結びつくことを期待しているのではないかと推察される。

その一方で、「ボランティア活動」や「身近な地域活動」、「地域のネットワークづくり」等の社会貢献、社会参加活動などに活かす項目は、軒並み20%以下の低い比率であった。

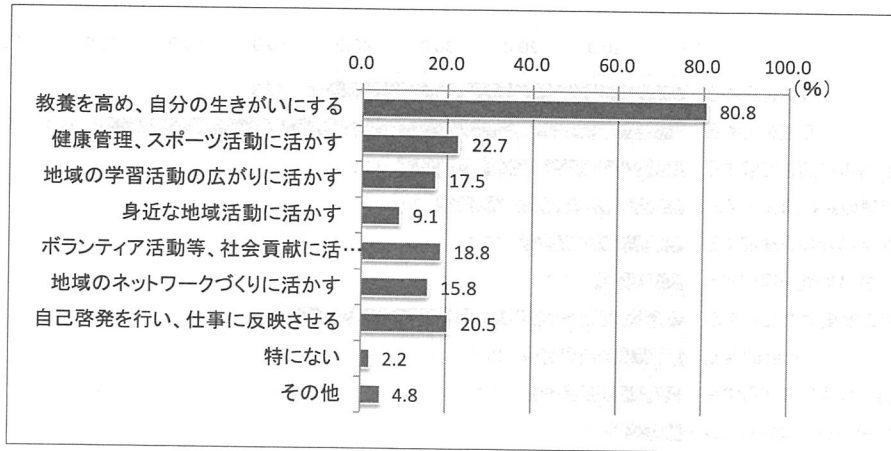
これら結果から、学習活動の成果を社会的活動で活かすよりも、「生きがいや楽しみ」「自分の健康やスポーツ活動」「知識や技術を仕事に活かす」など個人の自己啓発・自己実現のために行っていると予測される。

表10 学習の成果の活用

N=463 M.T.=192.0

選択項目	人数	%
1 教養を高め、自分の生きがいにする	374	80.8
2 健康管理、スポーツ活動に活かす	105	22.7
3 地域の学習活動の広がり活かす	81	17.5
4 身近な地域活動に活かす	42	9.1
5 ボランティア活動等、社会貢献に活かす	87	18.8
6 地域のネットワークづくりに活かす	73	15.8
7 自己啓発を行い、仕事に反映させる	95	20.5
8 特になし	10	2.1
9 その他	22	4.8
度数合計	889	

図10 学習の成果の活用



(3) 関心のある大学の講座内容 【問9】

「大学で学びたいこと」として、どのような関心があるのか質問したところ、表11・図11のとおり、7割を超える71.1%の受講者が「教養を高める（歴史・文学・語学・法律・考古・心理・地理等）」と回答している。次に、20ポイント以上選択率が下がるが、「地域の歴史や文化を学ぶ（伝統伝承文化・生活文化・地場産業・遺跡・考古学等）」と「趣味を深める（音楽・美術・書道・陶芸・舞踊等）」が40%台で続き、以下、30%台では「社会・時事問題を理解する（例示、略）」、「健康管理の最新知識を学ぶ（例示・略）」などが続いている。

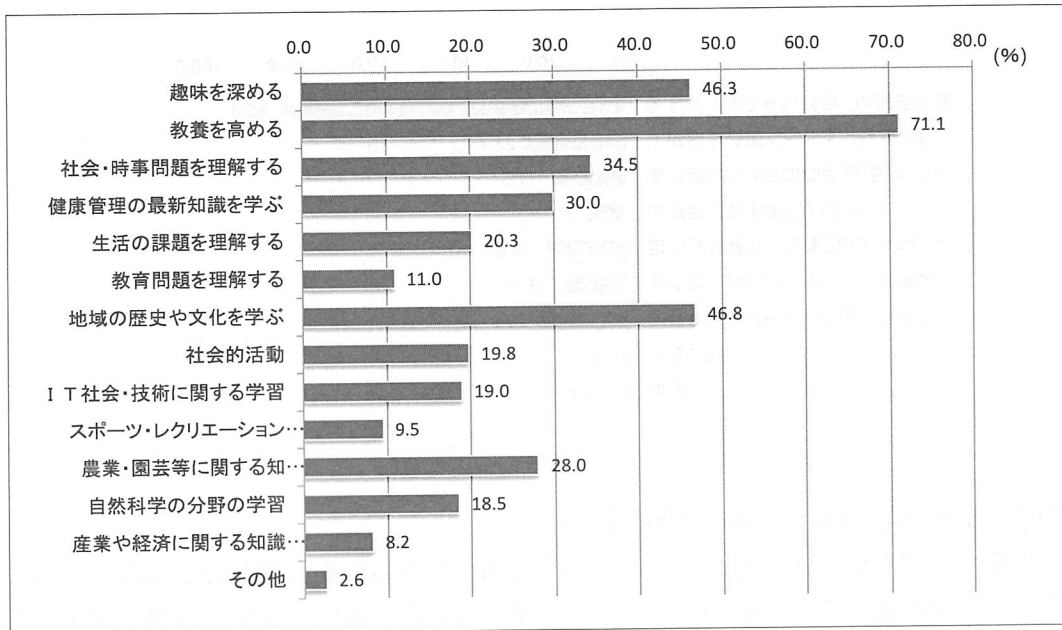
このように「大学で学びたいこと」として、7割以上の受講者が選択した「教養を高める」ことは、質問7の「受講の理由」の回答と繋がることでもあり、受講者の自己啓発・自己実現に結びつく学習内容が高得点となっている。しかし、今日、市民ニーズだけでなく、社会的な要請の高い地域課題にも大学として応えることが求められており、公開講座も社会の多様なニーズに応えるという観点から見直しが必要となってきている。

表11 関心のある大学の講座内容

N=464 MT=365.5

項目	人数	%
1 趣味を深める	215	46.3
2 教養を高める	330	71.1
3 社会・時事問題を理解する	160	34.5
4 健康管理の最新知識を学ぶ	139	30.0
5 生活の課題を理解する	94	20.3
6 教育問題を理解する	51	11.0
7 地域の歴史や文化を学ぶ	217	46.8
8 社会的活動（地域づくり、ボランティア活動）	92	19.8
9 IT社会・技術に関する学習	88	19.0
10 スポーツ・レクリエーション活動	44	9.5
11 農業・園芸等に関する知識・技術	130	28.0
12 自然科学の分野の学習	86	18.5
13 産業や経済に関する知識や技術	38	8.2
14 その他	12	2.6
度数合計	1696	

図11 関心のある大学の講座内容



(4) 島根大学公開講座への要望や感想 【問12】

講座を受講された感想や講座への要望などを求めたところ、224人（回答総数の48.1%）から記述をいただいた。自由記述については、計量テキスト分析を行うために、川端亮と樋口耕一の両氏が開発したKHCoderを用いた。

① 全体の頻出語の抽出と分析

感想や要望の記述全体で508の文があり、抽出された総単語数は7,889であった。この単語の内、記述文中の出現回数10以上の単語を表12で示す。表12の頻出単語を見てみると、受講者の公開講座・授業の受講や内容に係る単語（名詞・サ変名詞）で「講座」（100回）、「授業」（34回）、「公開」（29回）、「講義」（20回）等が多く頻出している。また、学習行動に係わる単語（サ変名詞・動詞）としては、「受講」（67回）、「参加」（32回）、「勉強」（16回）、「学ぶ」（24回）、「受ける」（15回）など多く頻出している。

また、これらに併せて、学習活動や講座受講の肯定的な気持ち表現する「楽しい」（45回）、「大変」（23回）、「出来る」（22回）、「感謝」（14回）、「楽しみ」（12回）、「良い」（10回）等も数多く頻出していることから、多くの受講者が公開講座、公開授業に真摯に、また積極的に取り組んでいるのではないかと推察される。

一方、批判的、否定的な意味合いに捉えがちな単語である「残念」（11回）も出現しているが、その「残念」の言葉が用いられた回答の11文を見てみると、内8つの回答は、およそ「自己都合で講座を受講できなかったのが残念」という内容であり、その他の「残念」の用法は、次のとおりで、本学の公開講座について批判的立場からの意見ではなかった。以下に、回答文の例を示す。

- 土曜日講座だった上、何かと大きな行事とぶつかり受講できず、とても残念でした。
- ・・・講座日が重ならないように申し込んだと思っていたのに、松江と出雲とが重なってしまい、時間とれなかったのは、残念だった。



○・・・「クリッカー」を使うアンケートに対する使い方を最初に休んだので、少しも理解出来ず答えられなかったことがとても残念でした。

○前期の日本史概説Aが聴きたかったのですが、後期なかったのが残念でした。

○すべての講座に出席できず、遅れを取り戻せないうちに講座が終了して残念でした。

表12 自由記述に頻出した出現数10回以上の単語一覧

	抽出語	出現数		抽出語	出現数		抽出語	出現数
1	講座	100	11	出来る	22	21	文楽	14
2	思う	94	12	内容	22	22	大学	13
3	受講	67	13	講義	20	23	楽しみ	12
4	楽しい	45	14	増やす	19	24	科目	11
5	授業	34	15	お願い	18	25	残念	11
6	参加	32	16	学生	16	26	続ける	11
7	先生	31	17	知る	16	27	関係	10
8	公開	29	18	勉強	16	28	希望	10
9	学ぶ	24	19	受ける	15	29	良い	10
10	大変	23	20	感謝	14	30		

表12-1 自由記述に頻出した出現数10回以上の単語の品詞

	名詞		サ変名詞		形容動詞		動詞		形容詞	
1	講座	100	受講	67	大変	23	思う	94	楽しい	45
2	先生	31	授業	34	残念	11	学ぶ	24	良い	10
3	内容	22	参加	32			出来る	22		
4	学生	16	公開	29			増やす	19		
5	文楽	14	講義	20			知る	16		
6	大学	13	お願い	18			受ける	15		
7	楽しみ	12	勉強	16			続ける	11		
8	科目	11	感謝	14						
9			関係	10						
10			希望	10						

※KHCoderの分析では、活用する語は動詞、形容詞、形容動詞にかかわらず、すべて基本形で抽出される。

次に、「思う」(94回)は2番目の頻度で出現しており、受講者の公開講座への肯定的、否定的の両方の意志表示に用いられるので、この言葉のある感想文等文章も注視する必要がある。例えば、「思う」が使用されている文章のいくつかを抽出すると次のような多様な文章が確認できる。(94文抽出の一部)

- 講座のテーマ・内容・レベルについてはよかったと思う。
- 公開講座を受講して大変よかったですと思っています。
- 趣味や教養の公開講座が少ないように思います。もう少し公開授業の科目を増やしていただけたらと思います。
- 学校外での講座(テルサやスティックビル)は、特に夜の場合、仕事帰りに利用しやすいと思っています。
- 医学テーマなどは出雲の医大キャンパスが会場になることが多いが、できれば松江での開催の機会を増やしてほしいと思う。
- 一方的な講義だけでなく教授に質問したり、学生の方と話し合いができる場があればと思います。
- ・・・現役学生さんも部活・アルバイトとお疲れと思いますが、勉学の条件が整っている「今でしょう」と思われますが。

これらの「思う」の用法の例では、それぞれ感謝や要望、希望、期待、評価などの文意を表現するために用いられており、直接的な批判ではなく、講座の改善に結びつくような問題の指摘や要望が多く見受けられた。

このように自由記述の回答文の頻出単語を抽出し、その単語の用法を文単位で比較したところ、講座に対する批判的な文言はほとんどなく、自由記述の感想全体としては、公開講座受講者の評価は受講者の満足度はかなり高かったのではないかと推察される。

今後、出現頻度の高い単語の文書検索を行うことで、公開講座への感想・意見を分析し、講座のあり方を考える上で貴重な情報を得ることができるものと考えている。

## ② 抽出した単語の出現パターンによる分析

前述の①では、自由記述文章の中の単語の出現回数と、及びその単語の持つ意味と使用されている回答の文意を注視し、受講者の感想や希望の全体的傾向を把握しようとしたものである。

ここでは、単語の単なる出現回数ではなく、どのような単語どうしが関連しているかを分析することで、受講者の回答の特徴を見ようとするものである。そこで、出現した上位29語の抽出単語の中で個々の単語の出現パターンを調べ、その似たものを線で結んで示す。円の大きさは、出現回数の多さを示し、各円を結ぶ線の太さは、共起の程度の強い関係を示している。

実際に、10回以上出現した単語の出現パターンを分析してみると、中心になる単語を軸に、関連して出現する頻度の高い状況を6つの共起グループとして分けることができる。それらの共起のネットワークを描いたものは図12のようになる。

この図から、回答全体に多く書かれている内容は、以下のように考えることができる。

- (1) 「授業」と「公開」に関すること、共起単語（「科目」「増やす」「楽しい」）
- (2) 「講座」に関すること、共起単語（「思う」「受講」「参加」「公開」）
- (3) 「学ぶ」ことに関すること、共起単語（「内容」「出来る」「残念」）
- (4) 「講義」に関すること、共起単語（「受ける」「大変」「希望」）
- (5) 「文楽」に関すること、共起単語（「良い」「知る」）
- (6) 「先生」と「学生」に関すること

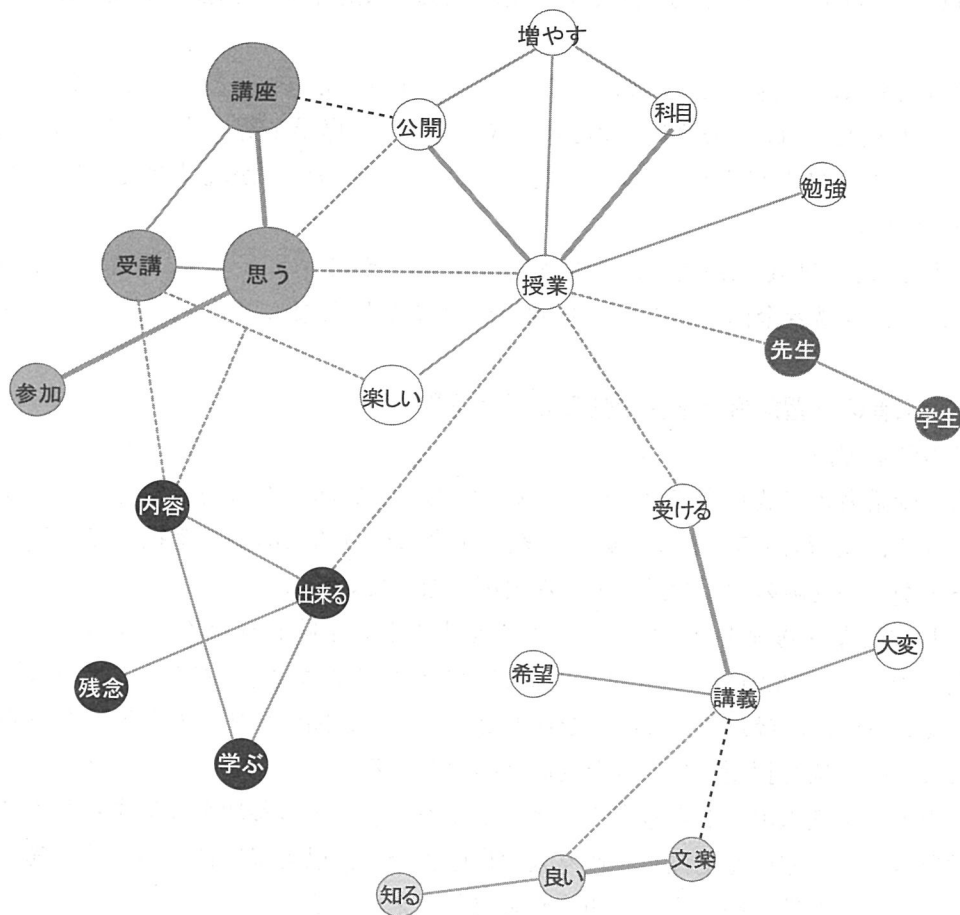


図12 出現上位単語の共起ネットワーク

これらの単語の共起ネットワークから考察すると、例えば、(1)は、「授業」を軸に「授業の公開」「科目を増やす」「授業は楽しい」のように単語を関連づけ分析すると「授業の公開に関すること」、(2)は「講座受講に思うこと」、(3)は「学ぶことに関すること」、(4)は「講義を受けること」、(5)「文楽に関すること」、(6)「先生と学生に関すること」と関連する感想や要望を挙げていると考えられる。

自由記述の「島根大学公開講座の要望や感想」について、記述内容を①全体の頻出語の抽出と分析に併せて、②抽出した単語の出現パターンについても分析してみた。その結果、記述内容は、大きく6つの単語の共起グループに分けられ、それぞれの単語の関連性から、受講者の要望と感想はおよそ肯定的な意見が多く、前向きな評価をしていると推察できた。

### Ⅲ 調査のまとめ

#### 1. 公開講座受講者の学習集団としての概要と特徴

平成25年度調査に回答を寄せた466名の受講生のフェイスシート・データを整理・分析してみると、公開講座受講者の学習集団としての特徴は以下のようにまとめられる。

- (1) 性別は、男性232人（49.8%）、女性234人（50.2%）のほぼ半数ずつである。
- (2) 年齢構成は、60歳以上の高齢者が全体の約7割（68.5%）を占めている。その60歳以上の受講者の内6割（59.9%）を男性が占め、60歳未満では、受講者の7割強が女性（72.1%）となっている。
- (3) 受講者の職業は、「無職」が48.1%で、次に「専業主婦」が17.8%となっている。

60歳未満の職業では、「公務員」の25.9%を筆頭に、「専業主婦（夫）」17.7%、「会社員」14.3%、「パート・アルバイト」13.6%と続いており、「公務員」が現役世代として最大の受講者層となっている。

60歳以上では、「無職」が67.7%、「専業主婦（夫）」が17.9%で、この両者で受講者の85.6%を占めており、受講者全体の58.6%と中心的な学習者集団となっている。

#### 2. 公開講座受講者の学習意識と学習行動の概要と特徴

##### (1) 受講者の受講理由

公開講座受講者の受講理由では、受講者の74.5%が「興味のある内容の講座があるため」を選択し、次に、受講者の50.4%が「幅広い教養を身につけるため」を選択している。受講者の学習ニーズが講座受講の学習行動の大きな要因となっている。

次に、具体的な受講理由として「心のハリや生きがい味わうため」（38.0%）、「退職後の余暇の充実のため」（32.0%）、「生活の時間に余裕ができたため」（27.5%）等が選択比率の上位を占めているが、60歳以上の高齢者を中心とした学習集団が全体の6割近くを占めていることが、これらの上位選択項目の大きな要因と推察される。

受講理由の上位選択項目から考察すると、より多くの市民の参加を推進するためには、地域住民の学習ニーズを幅広く把握し、個々人の自己啓発・自己実現に結びつく教養講座や社会の変化に対応する専門性の高い講座の開講が必要と考えられる。

##### (2) 受講者の学習の成果の活用

学習の成果の活用方法では、圧倒的に高い選択率80.8%で「趣味・教養を高め、生きがいや楽しみにする」が選択されている。次点は、およそ60ポイント低い選択率で「自分の健康管理やスポーツ活動等に活かす」（22.7%）、「知識や技術を高めたり、資格を習得したり、自己啓発を行い、仕事に反映させる」（20.5%）が選択されている。これらの上位選択項目から推察するに、公開講座での学習の成果は、「生きがいや楽しみ」「自分の健康やスポーツ活動」「知識や技術を仕事に活かす」など個人の自己啓発・自己実現のために行っているものと考えられる。

一方、「ボランティア活動」や「身近な地域活動」、「地域のネットワークづくり」等の社会貢献、社会参加活動などに活かす項目は、軒並み20%以下の低い比率となっており、これらの結果から、本学の公開講座の受講者は、学習の成果を社会的活動で活かすよりも自分自身の自己啓発や自己実現のために活かすことをまず考えていると考察される。

### (3) 関心のある学習内容

「大学で学びたいこと」として、どのような事に関心があるのか質問したところ、7割を超える71.1%の受講者が「教養を高める（歴史・文学・語学・法律・考古・心理・地理等）」と回答している。次点は、20ポイント以上選択率が下がり「地域の歴史や文化を学ぶ（伝統伝承文化・生活文化・地場産業・遺跡・考古学など）」及び「趣味を深める（音楽・美術・書道・陶芸・舞踊など）」が40%台で続き、次に、「社会・時事問題を理解する（例示、略）」、「健康管理の最新知識を学ぶ（例示・略）」などが30%台では続いている。

このように「大学で学びたいこと」として、7割以上の受講者が「教養を高める」ことを選択しており、受講者の自己啓発・自己実現に結びつく学習内容が高得点となっている。このことは、質問7「受講の理由」、問8「学習の成果の活用」の回答と相まって、市民の大学での学びの目的が「教養を高める」ことが中心となっているものと考察される。しかし、今日、市民ニーズだけでなく、社会的な要請の高い地域課題にも大学として応えることが求められており、市民の学習機会となっている公開講座も社会の多様なニーズに応えるという観点から見直しが必要となってきている。

### 3. 公開講座・公開授業の在り方への要望、希望

「公開講座についての要望や感想」の自由記述回答について、前章で文章中の頻出単語の分析や頻出単語の出現パターンの分析を行ったが、それらの分析をもとに、出現した単語の出現パターンを6つの共起グループとして分けることができた。次に、それらの共起グループごとに頻出単語をキーワードに関連文章を検索・抽出したものが下記の例示文となる。これらの例示文を頻出単語と関連文書をもとにまとめると「公開講座の在り方への要望や希望」はおおよそ以下のようになる。

- (1) 「授業」と「公開」に関すること、共起単語（「科目」「増やす」「楽しい」）
  - ・近年の社会的な課題が理解できる内容の授業を公開授業にしてほしい。
  - ・継続的に、段階的に学びたいので、上のレベルの授業を公開してほしい。
  - ・もう少し公開授業の科目を増やしていただきたい。
- (2) 「講座」に関すること、共起単語（「思う」「受講」「参加」「公開」）
  - ・「～と読む会」といった外国文学の公開講座があると良い。
  - ・県西部での公開講座を増やして欲しい。
  - ・政治や経済など時事問題を学べる講座を公開講座に取り上げてほしい。
- (3) 「学ぶ」ことに関すること、共起単語（「内容」「出来る」「残念」）
  - ・生活に役立つ法律、医療についてもっと詳しく学びたい。
  - ・高齢者にとって、最初の講義で若い学生の方に対し紹介していただくと、ともに学ぶという輪に入っていけるような気がします。
- (4) 「講義」に関すること、共起単語（「受ける」「大変」「希望」）
  - ・今回の講義日は、土曜日でしたが、今後は出来れば平日を希望します。
  - ・文学や歴史を学ぶのに講義形式の授業だけでなく、演習形式の公開授業が増えることを希望しています。
  - ・一方的な講義だけでなく質問したり、学生の方と話し合いができる場があればと思います。
- (5) 「文楽」に関すること、共起単語（「良い」「知る」）
  - ・講義と文楽の観劇の組み合わせはとても良い企画だった。来年度もやってほしい。

(6) 「先生」と「学生」に関すること

- ・全国的な有名な先生の話を知りたい。
- ・先生の声はもうすこし大きいとありがたいです。聞き取りにくいこともあるので。
- ・もう少し先生の指導があっても良いのではと思いました。

以上のように「公開講座の在り方への要望や希望」は、講座の内容、講座の運営、講師や開催場所・時間、授業形式、教師と学生との関係まで多岐に亘っており、市民の要望や希望も参考にしながら、今後、島根大学にふさわしい「公開講座の姿」について、学内の関係部局・センターなどで対応・協議を進めることが必要となってきた。

# 公開講座受講者アンケート

……アンケートご協力のお願い……

## 受講者の皆様

本学の公開講座を受講していただき、厚くお礼申し上げます。

さて、島根大学では、公開講座受講者の皆さまの学習活動への「感想」や「期待」、「思い」等をおたずねし、今後の公開講座の企画・運営の改善に反映させる目的で、講座終了時にアンケートを実施しております。

ご多忙のところ大変恐縮ですが、本アンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

なお、皆様の回答は、前述の目的以外には使用しませんのでご承知おきください。

島根大学生涯教育推進センター

### ご記入の前にお読みください

- 1、 回答は、あてはまる番号に○で囲んで下さい。なお、設問によっては複数の回答ができる場合もありますので、ご注意ください。
- 2、 回答が「その他」の場合は、その番号を○で囲むとともに、( ) 内に具体的にその内容をご記入下さい。
- 3、 ご記入いただいたアンケート票は、大変お手数をおかけしますが、講座終了後、お帰りの際に、講座担当者にお渡し下さい。

※もし、当日お渡しできない場合には、後日、来校の際に生涯教育推進センター窓口を持参されるか、郵送又はFAXにて下記のセンター事務室までお送り下さいますようお願い申し上げます。

### アンケートについてのお問い合わせ先

島根大学生涯教育推進センター 担当：仲野

住 所：〒690-8504 松江市西川津町 1060

電 話：0852-32-6408

FAX：0852-32-6098

Eメール：erc11@edu.shimane-u.ac.jp

## あなたご自身についておたずねします

質問1 性別についてお答えください。(どちらかの番号に○)

1. 男性      2. 女性

質問2 年代についてお答えください。(あてはまるもの1つに○)

1. 20歳未満      2. 20歳代      3. 30歳代      4. 40歳代  
5. 50歳代      6. 60歳代      7. 70歳代      8. 80歳以上

質問3 お住まいの地区はどこですか？(あてはまるものに○)

1. 松江市      2. 出雲市      3. 安来市  
4. 雲南市      5. 米子市      6. 境港市  
7. その他の市町村 ( )

質問4 あなたのご職業、または属する業種は何ですか？(あてはまるもの1つに○)

1. 商工自営業      2. 専業主婦(夫)      3. 無職  
4. 会社員      5. 自由業(自営)      6. 農林漁業従事者  
7. 公務員      8. 団体職員      9. パート・アルバイト  
10. 学生      11. その他・具体的に ( )

※8.自由業とは、医療関係、法務関係、会計経営関連、芸能、文筆業、習い事教師等の自営者

## 島根大学公開講座の受講についておたずねします

質問5 公開講座の募集を何で知りましたか？(あてはまるもの全てに○)

1. 大学のホームページ      2. 大学の受講生募集の案内の小冊子  
3. 新聞折込みの募集チラシ      4. 新聞の記事(講座や講演等の案内、お知らせ)  
5. テレビ・ラジオ等のお知らせ      6. 公共施設(公民館等)に配置した募集チラシ  
7. 「市町村の広報」のお知らせ      8. 学校や地域の集会等で配布した募集チラシ  
9. クチコミ      10. その他 ( )

質問6 島根大学公開講座を受講されるのは何回目ですか？(あてはまるもの1つに○)

1. 初めて      2. 2回目      3. 3回以上

質問7 公開講座を受講した理由は何ですか？(あてはまるもの全てに○)

1. 幅広い教養を身につける      2. 仕事に役立つ専門的知識や技術を学ぶ  
3. 時代や社会の変化に遅れないため      4. 心のハリや生きがいを味わうため  
5. 興味のある内容の講座があるため      6. 友人・知人にすすめられたため  
7. 話を聞いてみたい講師がいるため      8. 退職後の余暇の充実のため  
9. 仕事に役立つ資格を取得するため      10. 健康保持のため医療・介護知識を学ぶ  
11. 地域活動等の社会貢献に活かすため      12. 生活の時間に余裕ができたため  
13. 学生や教員、受講者同士等いろいろな人と交流するため  
14. 大学の雰囲気味わうため      15. その他 ( )



質問8 公開講座で学んだことをどのように活かしたいと思いますか？  
(あてはまるもの全てに○)

1. 趣味を深め、教養を高め、自分の生きがいや楽しみにする
2. 自分の健康管理、体力づくり、スポーツ活動に活かす
3. 他の人に知識や体験を伝えるなど、地域の学習活動の広がり活かす
4. 自治会・PTA・地域の各種団体など、身近な地域活動に活かす
5. ボランティア活動など、社会参加、社会貢献に活かす
6. いろいろな人と交流するなど、地域のネットワークづくりに活かす
7. 知識や技術を高めたり、資格を習得したり、自己啓発を行い、仕事に反映させる
8. 特にない
9. その他(具体的に: )

質問9 今後、「大学で学びたいこと」としては、どのようなことに関心がありますか？  
(関心があるもの全てに○)

1. 趣味を深める (音楽・美術・書道・陶芸・舞踊など)
2. 教養を高める (歴史・文学・語学・法律・考古・心理・地理など)
3. 社会・時事問題を理解する (社会経済・国際関係・環境問題・エネルギーなど)
4. 健康管理のための最新知識を学ぶ (健康法・医学・最新の治療法・栄養など)
5. 生活の課題を理解する (消費者問題・年金・介護・保険・詐欺・家族関係など)
6. 教育問題を理解する (犯罪、ひきこもり、いじめ、虐待・家庭・学校内暴力など)
7. 地域の歴史や文化を学ぶ (伝統伝承文化、生活文化、地場産業、遺跡、考古学など)
8. 社会的活動 (地域づくり・ボランティア活動・福祉活動など)
9. IT社会・技術に関する学習 (パソコン操作、インターネット・ICT・SNS など)
10. スポーツ・レクリエーション活動 (指導法、競技技術、ニュー・スポーツなど)
11. 農業・園芸等に関する知識・技術 (食品安全、農薬、実践的な農業技術等)
12. 自然科学の分野の学習 (地球環境、宇宙、原子力、物理学や地質学、生物学等)
13. 産業や経済に関する知識や技術 (最新の土木技術、生産加工技術、太陽光発電など)
14. その他・具体的に ( )

質問10 島根大学公開講座について、要望や感想等がありましたらご記入ください。

( .....  
.....  
.....  
..... )

これで質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。

このように、この本は、読者の心を打つ力がある。そして、その力によって、読者の心を動かすことができる。

この本は、読者の心を打つ力がある。そして、その力によって、読者の心を動かすことができる。この本は、読者の心を打つ力がある。そして、その力によって、読者の心を動かすことができる。この本は、読者の心を打つ力がある。そして、その力によって、読者の心を動かすことができる。

この本は、読者の心を打つ力がある。そして、その力によって、読者の心を動かすことができる。

この本は、読者の心を打つ力がある。そして、その力によって、読者の心を動かすことができる。この本は、読者の心を打つ力がある。そして、その力によって、読者の心を動かすことができる。この本は、読者の心を打つ力がある。そして、その力によって、読者の心を動かすことができる。この本は、読者の心を打つ力がある。そして、その力によって、読者の心を動かすことができる。

この本は、読者の心を打つ力がある。そして、その力によって、読者の心を動かすことができる。

この本は、読者の心を打つ力がある。そして、その力によって、読者の心を動かすことができる。この本は、読者の心を打つ力がある。そして、その力によって、読者の心を動かすことができる。この本は、読者の心を打つ力がある。そして、その力によって、読者の心を動かすことができる。

この本は、読者の心を打つ力がある。そして、その力によって、読者の心を動かすことができる。